



「尚徳」 8月号 第599号 令和4年8月29日  
鳥取大学附属小学校 学校便り  
<https://sho.fuzoku.tottori-u.ac.jp/>



題字「尚徳」は、住川英明 地域学部教授 (元校長)

## ひと夏の成長

校長 山下博樹

今夏も第7波のコロナ禍のピークと重なり、警戒感を緩めることのできない夏休みとなりました。とはいえ、公的な行動制限のない夏休みは久しぶりでしたので、各ご家庭でも子供たちとの楽しい思い出づくりがされたのではないのでしょうか。

夏休み前の全校集会は、感染予防のためにオンラインで実施しましたが、その際に私は夏休みの意味についてお話ししました。かつては暑さを避けることが大きな目的であった夏休みも、エアコンが完備した学習環境では理由が成り立ちません。他方で、普段できないことに取り組むことができるのも、長期休暇の大きな目的であることを説明しました。そして子供たちにこの39日間の長い夏休みに何か続けて取り組むことを勧めました。大人からすれば1か月余りの短い期間かもしれませんが、子供たちにとってはいろいろなことにチャレンジできる機会だったと思います。目に見えて、あるいは形に残るものでなくても、子供たちの言動や振る舞いなど、このひと夏の成長や変化を私たち教員は一人ひとりの子供から見取っていきたいと思います。長期の休み明けには子供たちの思いもよらぬ動きも散見されますが、お気づきのことなどあればご遠慮なくご相談いただけたら幸いです。

さて、夏休みが明けると本校では、教育実習、夏休み作品展、運動会、森の学校と行事ラッシュとなります。こうした行事だけでなく、日常の学校活動を通常通りに継続するためにも、これまで通りの各ご家庭のご協力が重要です。注意深く健康観察をしていただき、普段とは異なるお子さんの様子があれば決して無理をさせずにお休みすることを、改めてお願いいたします。大勢の子供たちの健全な学校活動を持続するためのマナーとご理解いただけたら有難いです。引き続き、本校の教育活動へのご支援、ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

### 「教育通信書」の所見について

近年、学校において働き方改革が全国的な課題となっています。本校においても学校が本来大切にすべき授業や子供の学校生活の充実に関する業務により専念できるように業務の見直しを図っているところです。その一つとして、教育通信書の見直しを図っています。

教育通信書は前期、後期それぞれで作成し、学期の最終日にお渡ししており（この教育通信書の詳しい見方、活かし方につきましては、前期教育通信書の配付に併せて文書にてお知らせします）、その中で、「特別の教科道徳」「総合的な学習の時間」「外国語活動（第3、4学年）」の学習の成果、また学校生活全般における「担任の所見」について文章記述欄を設けています。昨年度はそれら記述欄の一部を後期通信書にまとめて記述をしていましたが、今年度よりすべての記述欄について後期教育通信書にまとめて記述します。

これにより、特に夏休み明けで子供たちが学校生活に慣れるまでのより注意深い様子の把握や理解により力を向けたり、運動会等の学校行事でのよりきめ細かい指導を充実させたりすることができたりします。保護者の皆様におかれましては、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

### 夏休み作品展について

学校だより「尚徳」7月号で夏休み作品展の概要をお伝えしていましたが、その後の新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、実施日（9月10日、11日）や来校の人数（各家庭1名）を変更いたしました。詳しくは案内文書を配付しますので、ご確認ください。

### 分散参観日の日にち変更

年間行事予定で11月の分散参観日を24日、25日としていましたが、11月24日（木）、11月28日（月）に変更いたします。分散参観日の詳細は改めて案内いたしますが、日にちの確認をお願いいたします。



7月12日（火）に今年度4回目となる校内授業研究会が行われました。今回も4授業あり、授業には共同研究者の鳥取大学の先生方や附属中学校の先生方が参観されました。研究会の協議では、研究グループ内で授業を公開された先生を中心に個別最適な学びについて話し合いが進められました。

授業や話し合いを通して、教職員全体で個別最適な学びのイメージが共有されてきていることを感じました。授業ではどの授業でも、タブレット端末は学びのツールの一つとして当たり前のように使用され、子供たち自身がタブレット端末を使いこなしている姿が多く見られました。

### 《社会科授業の様子》

社会科では、協働学習と個別学習を往來する学習を目指しています。それは、自分で学習の仕方を選択しながら追究を深めると同時に、友達と学びを共有すること情報に対する見方考え方を広げることを目的としています。今回は、「庄内平野の何が米づくりにいいの？」というテーマについて、教科書、資料集、タブレット、山形県産「つや姫（実物）」など、自分が学びに活用したいツールを選び、調査活動をしました。子供達は、気候、地形、周囲の川や山などの自然環境など、次々と学習課題につながる情報を探し出していました。また、班で調べた情報を交換し、学びを深めました。

今後も、疑問に持ち、調べ、学び、交換し、また学ぶ…そんな学習を子供たちと共に進めていきたいと考えています。



### 《算数科授業の様子》

算数科では、三角形の内角の和が180度になることを基に、「星形五角形の5つの内角の和を求めましょう」という学習課題で探究的な学習を行いました。三角形の内角の和の求め方と同様に考えるなど既習の方法を使って考える子供や、未習の五角形の内角の和を使って求められないか考える子供など、それぞれの探究の姿が見られました。タブレットを使って考え方を共有することで、その考えの良さに気付いたり解決の見通しをもったりしながら、自分が解きたい方法を自分で選んで活動をしていきました。課題を解決していく過程で表れる問いについて研究を進めていきます。



### 《外国語科授業の様子》

2年生の英語活動の学習では、好きなフルーツを尋ねたり、答えたりする活動を楽しみました。コミュニケーション活動の前に、単語やフレーズの練習時間（ステップアップタイム）をとると、タブレットをつかって、友達と、先生となどいくつかの練習方法の中から自分に合ったものを選び、練習に取り組む子供たちの姿が見られました。コミュニケーション活動の場面では、いろいろな人に尋ねたい！と練習の成果を生かしながら意欲的に取り組んでいました。学習の最後には、再度ステップアップタイムを取り入れることで、英語力の向上を目指しました。次の単元ではステップアップタイムなしで行ってみる予定です。このステップアップタイムが子供たちにとって、円滑なコミュニケーション活動に有効かどうかを比較しながら研究を進めていきます。



### 《生活科授業の様子》

生活科では、「探究的な学習」をキーワードに研究を継続しており、今年度で5年目となります。子供たちの思いや願いを学習の原点として、どのような問いをもち、どのような学習活動を展開していくのかについて自覚的に学んでいくことで学びを深めていく授業づくりを目指しています。今回学習した単元「ぐんぐんそだて みんなの野さい」では、収穫した野菜でやりたいこと（単元のゴール）を話し合っただけで決め、そのためにはどうしたらよいかについて考えたり調べたりする活動を行いました。一人一人が自分の問いを解決するために適した方法を選んで調べたり相談したりしつつ、ゴールまでの具体的な方法や見通しを立てていきました。実物や本、タブレット、その道のプロ等さまざまなツールを学習材として、各自が必要だと考えたものを活用することが個別最適な学びとなり、後に全員で行った話し合いが深まりました。今後も個別最適な学びと協同的な学びの場面の両輪で探究的な学習を進めていくことができるように研究を行っていきます。

